

北海道滝川市立明苑中学校 2年

田中優芽

「拉致被害者の一日も早い救出を願って」

ある日突然、私と同じ歳の女の子がひとりぼっちで知らない国に連れていかれるなんて…。私は、アニメ「めぐみ」を見て、ニュースや新聞でしか聞いたことがなかったこの問題の本当の恐ろしさを知りました。

私は今、テニス部に入り毎日の練習に励んでいます。めぐみさんもまた、バトミントン部で毎日充実した日々を送っていました。この事件が起きなければ、きっと私と同じように家族や友人に囲まれ、自分の夢に向かって生きる幸せな人生を送っていたことでしょう。でも、そんなめぐみさんの人生は、北朝鮮に拉致されたことにより、大きく変わってしまいました。私には想像できないほどの恐怖、悲しみや苦しみ、そして悔しさがあったと思います。

そして、日本で帰りを待つ家族の人生も悲しみに包まれたものとなってしまいました。

先日読んだ新聞記事には、国民大集会のことが載っていました。「そもそも家族会の活動が世代替わりするなんて、許してはいけないことだ。」この言葉はとても印象に残りました。これはめぐみさんの弟さんの言葉です。北朝鮮に拉致された日本人は、わかっているだけでも十七人だそうです。この四十年、めぐみさんやその家族と同じような悲しみを抱いている日本人が、この日本にたくさんいることを知り、私はこのような理不尽な行為を絶対に許してはいけないと思いました。

日本政府は、拉致被害者の帰国を求めて北朝鮮政府と話し合いを続け、五名の日本人が帰国していますが、完全な解決にはいたっていません。仮に北朝鮮に拉致されたすべての人が救出されたとしても、その方々の失われた時間が戻ってくることはないのです。

こう考えると、この問題が本当に解決することはありませんが、せめて、北朝鮮に拉致された全ての人を明らかにし、北朝鮮は一人残さず拉致した日本人を返すべきだと思います。

そのためには、私たち国民一人一人が拉致という恐ろしい人権侵害の問題についてしっかりと理解し、すべての拉致被害者を日本に帰国させるように、北朝鮮に対し求め続けていくことが大切です。

私ができること、それは私も一人の日本人として、学校の授業などで北朝鮮拉致問題についてより深く学び理解すること、今もなお日本に戻ることでできない人たちがいるということを忘れないこと、そして、被害者全員の一日も早い救出を願って、拉致問題の悲惨さを多くの人に伝えていくとだと思います。